

開催日 2010年5月17日(月)
場 所 大和証券グループ本社 18階ホール
(グラントウキョウ ノースタワー)

大和証券グループ本社

Daiwa Securities Group Inc.

PASSION
FOR THE
BEST

大和証券グループ 2010年度 春季会社説明会

株式会社大和証券グループ本社
執行役社長 鈴木 茂晴

本資料は、2009年度の業績および今後の経営ビジョンに関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料は2010年5月17日現在で公表可能な情報に基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

目 次

2009年度 業績概要	．．．．	3
アジア戦略	．．．．	6
リテール	．．．．	11
ホールセール	．．．．	18
アセット・マネジメント	．．．．	25

2009年度 業績概要

大和証券グループ本社連結 業績概要



(単位:百万円)	FY2009 累計	FY2008 累計	前年度比 増減率	FY2009		対'09.3Q 増減率
				4Q	3Q	
営業収益	537,915	413,936	30.0%	116,549	183,615	-36.5%
純営業収益	458,105	199,544	129.6%	98,094	165,509	-40.7%
販売費・一般管理費	362,844	343,270	5.7%	90,946	99,775	-8.8%
経常利益	102,917	-141,150	—	10,160	67,891	-85.0%
純利益	43,429	-85,039	—	-2,798	26,366	—
総資産	17,155,345	14,182,579		17,155,345	14,873,191	
純資産	1,017,528	952,329		1,017,528	938,405	
自己資本*	927,163	720,272		927,163	925,983	
EPS(円)	26.41	-63.16		-1.60	15.08	
BPS(円)	530.27	534.99		530.27	529.60	
ROE(年換算)	5.3%	—		—	11.0%	

* 自己資本＝株主資本＋評価・換算差額等

ROE(年換算)	FY2009	4Q
大和証券	9.5%	10.3%
大和証券CM(連結)	9.9%	12.6%

2009年度 配当案
<u>13円(中間配当5円, 期末配当8円)</u>

2009年度のトピックス

中期経営計画発表（2009年4月）

【経営目標】

連結経常利益:2,000億円以上、 連結ROE:10%以上、 時価総額:国内ランキング40位以内

20年ぶりに公募増資を実施（2009年7月）

連結自己資本:9,271億円、 流動性ポートフォリオ等合計:2兆3,500億円(2010年3月末現在)

三井住友フィナンシャルグループとの合併を解消（2009年9月）

2010年1月 「大和証券SMBC株式会社」から「大和証券キャピタル・マーケット株式会社」に商号変更

アジアビジネスの強化

日本を含めた「アジア市場全体」を当社グループのマザー・マーケットに

アジア戦略 ～主な施策～

大和証券キャピタル・マーケットの香港現地法人を「第2本社」化

- 大和証券CMの副社長を筆頭にアジア全体で役員5名体制へ（香港4名、シンガポール1名）
- グローバル・エクイティ・セールスラインヘッド および グローバル・インベストメント・バンキング部門Co-ヘッドが香港に駐在
- 経営戦略立案などの本社機能を東京から一部移管し、アジア拠点を統括するハブ機能の構築

人員体制強化

グローバル・マーケット部門

アジア株・デリバティブビジネス分野で約300名増強

グローバル・インベストメント・バンキング部門

引受およびM&Aビジネス分野で約100名増強

現地有力者のアドバイザーへの招聘

- 現地有力者を各拠点の共同会長／顧問に招聘
 - ➡ アジアにおける経営・営業展開に関する助言および支援

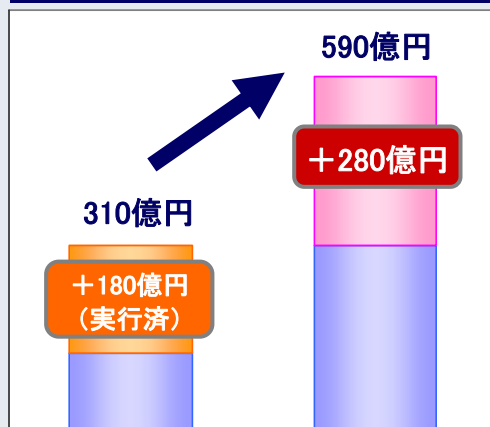
海外拠点の資本増強

- アジア関連ビジネス推進のため1,000億円規模の資本増強

アジア戦略 ～資本増強計画～

アジア

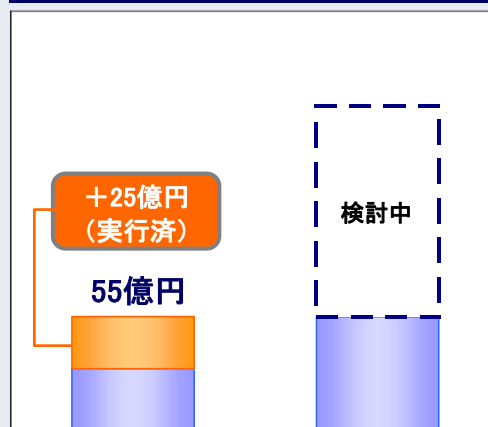
香港



10年3月末

資本増強後

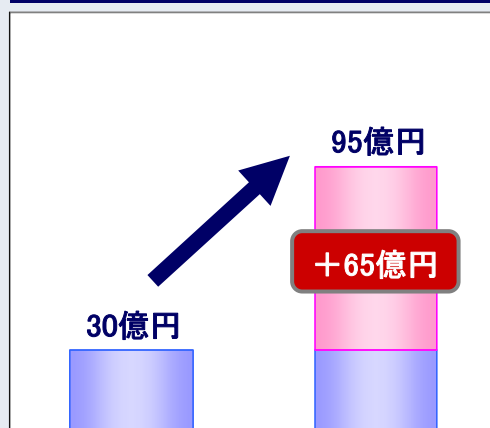
韓国



10年3月末

今後の予定

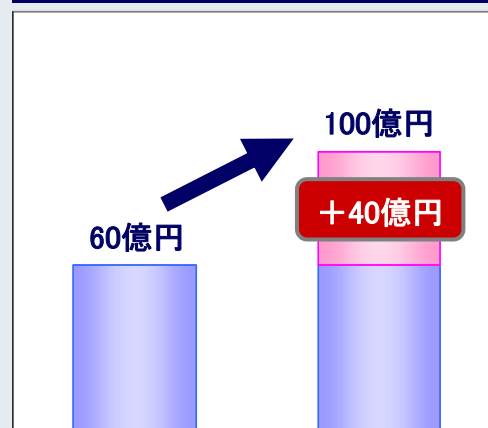
インド



10年3月末

資本増強後

シンガポール

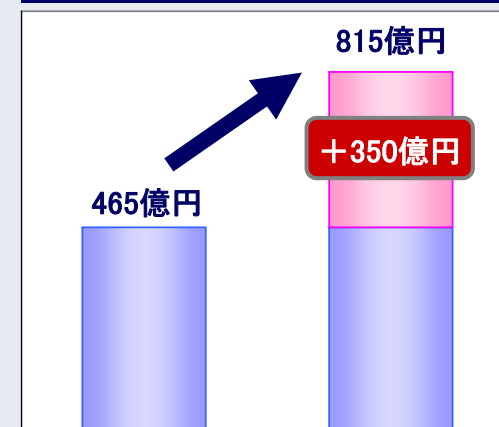


10年3月末

資本増強後

欧州

英国



10年3月末

劣後ローン実行後

(注)

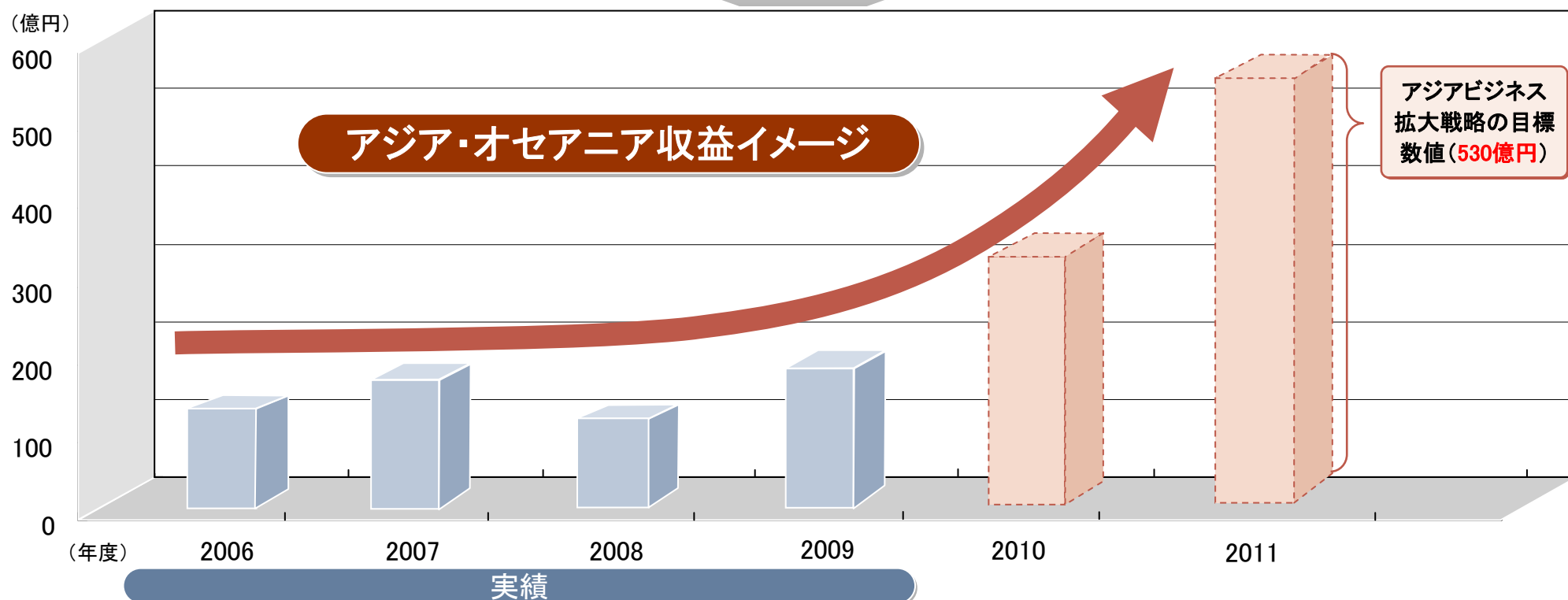
- 各資本額は、2010年3月末時点の為替レートで算出した概算値
- 英国については、劣後ローン枠を設定予定

アジア戦略 ～目標の設定～

『 アジアを代表し、世界に通用する質の高い投資銀行 』を目指す



両部門を集中的かつ同時に強化することで早期の相乗効果実現を狙う



アジア戦略 ～基本戦略&重点地域～

	基本戦略	重点地域
グローバル マーケット部門	アジア株 ■ 国別に優先順位を付けた大規模かつ迅速な体制強化による収益の飛躍的拡大 ➢ グローバルベースで重点顧客カバレッジ体制を強化 ➢ リサーチ・プロダクトの強化 (ランキングアナリストの採用、カバー銘柄の拡大、汎アジアリサーチの拡充) ➢ コーポレートアクセスの拡充 ➢ 取引執行インフラの強化・拡充 ➢ プリンシパル対応の強化	■ 香港・中国 ■ 韓国 ■ 台湾 ■ インド
	デリバティブ ■ デリバティブプロジェクトを通じて構築したプラットフォーム活用によるアジア・デリバティブ・ビジネスの開拓 ➢ 事業法人、機関投資家、ヘッジファンド、富裕顧客層向けPB等、広範な顧客層をターゲットとし、多様なデリバティブプロダクトの販売をアジア域内およびクロスボーダーに展開	■ 香港 ■ シンガポール ■ 台湾
グローバル インベストメント バンキング部門	■ アジアIB体制の抜本的強化による大型IPO/PO及びM&Aの獲得 ➢ カントリーバンカーの強化・拡充 ➢ 香港におけるセクターカバレッジ体制の強化とプロダクトバンカー整備	■ 香港・中国 ■ インド

アジア戦略 ～アジアにおける当社の歩み～



- 世界初のアジア달러債(DBS銀行債)の主幹事を務め、シンガポールのオフショア市場にアジア달러債市場を創設(1971)
- 世界初のアジア開発銀行(ADB)が発行したユーロ円債の主幹事(1978)
- 伊藤忠の香港法人によるアジア달러CP第1号の幹事 (1980)
- アジア金融投資会社(AFIC)の設立に参画、初代社長を派遣(1989)
- シンガポールのシンガポール航空、DBSランド、シンガポール・テレコム、マレーシアの電力会社テナガナショナル、ペトロナス・ガスの民営化にあたり海外主幹事を獲得
- ADB円建て債300億円(通称ドラゴン円債)の主幹事(1993)
- アジア企業の東証上場第1号—マレーシアのYTLグループの上場主幹事(1996)
- フィリピンのオフショア市場の育成、フィリピン開発銀行のフィリピン・オフショア円債発行主幹事獲得(1997)
- SinoComの香港上場主幹事獲得、また平安保険をはじめ中国工商银行、中国銀行、交通銀行、中国建設銀行、招商银行、上海電気等、シンガポール・ポスト、中華電信(台湾)等多くのIPO/PO案件においてPOWL主幹事を務める(2004～)
- 中国企業初の東証一部上場案件、チャイナボーチの主幹事を務める(2007)
- 韓国・東洋生命の現地IPOで共同主幹事を務める(2009)
- 上海康耐特光学のIPOで中国・深セン取引所上場主幹事を日系では初めて務める(2010)
- オーストラリア証券取引所への上場主幹事を務める(2010)

リテール

コンサルティング力の向上を通じた顧客基盤の拡大

お客様の幅広いニーズを捉えた魅力ある商品・サービスの提供

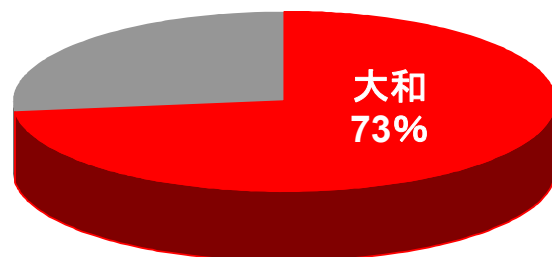
IT活用を通じた事務の合理化・効率化によるコスト削減

グループの総合力を活かした商品・サービスの拡充

インパクト・インベストメント債券の販売実績

発行日	商品名	発行額(概算)
2008年3月19日	ワクチン債	213億円
2008年6月26日	ワールドクールボンド	27億円
2009年2月20日	ワクチン債	408億円
2009年11月20日	マイクロファイナンス・ボンド	246億円
2010年2月3日	グリーン世銀債	97億円
2010年3月24日	ワクチン債	309億円
2010年4月16日	ウォーター・ボンド	604億円
2010年5月21日	エコロジー・ボンド	現在販売中

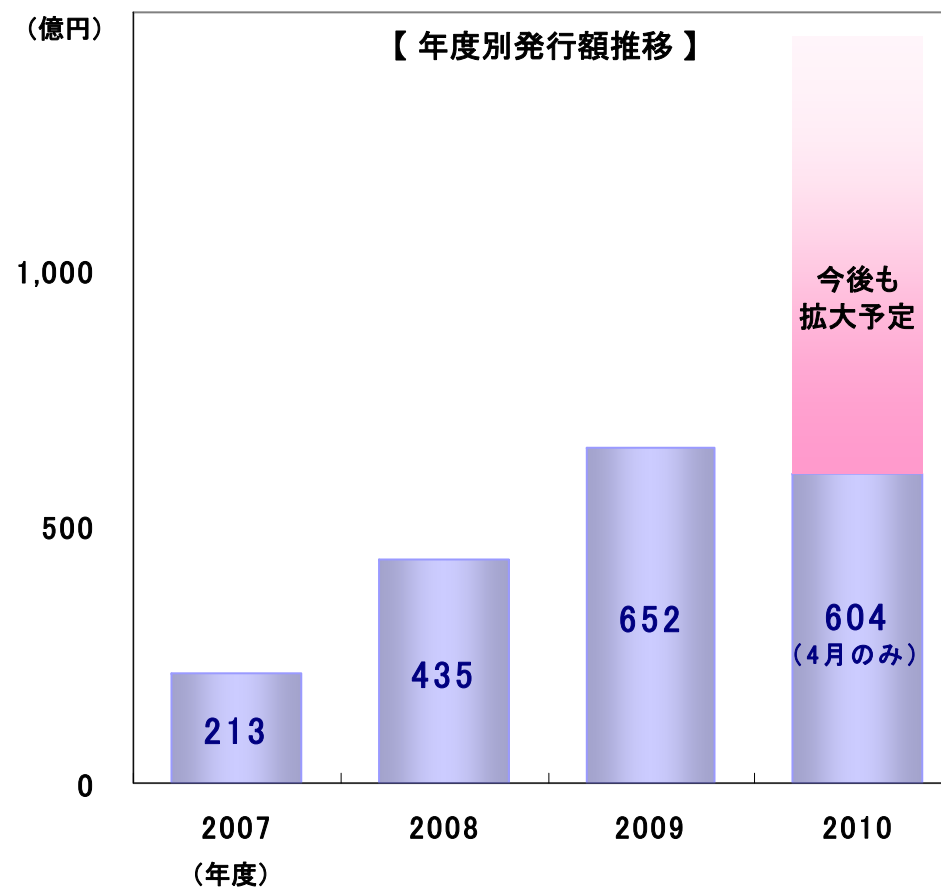
【インパクト・インベストメント債券 販売シェア】



(出所)大和証券調べ ※個人向け債のみ(2010年4月末現在)

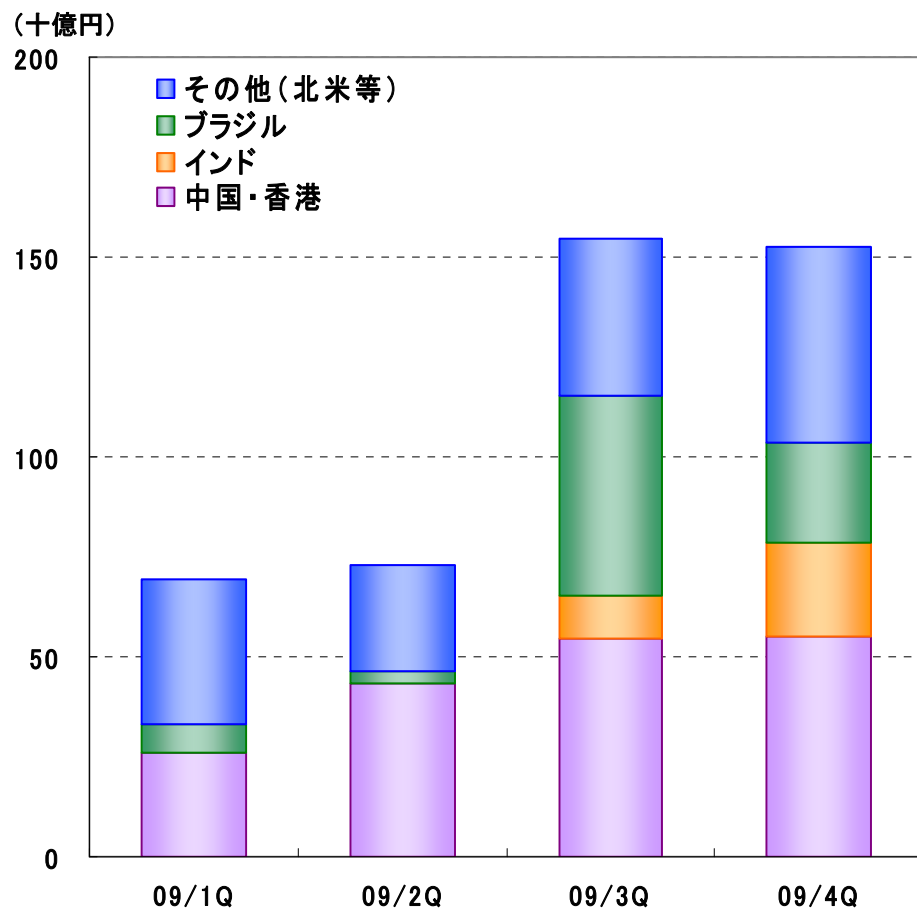
(億円)

【年度別発行額推移】

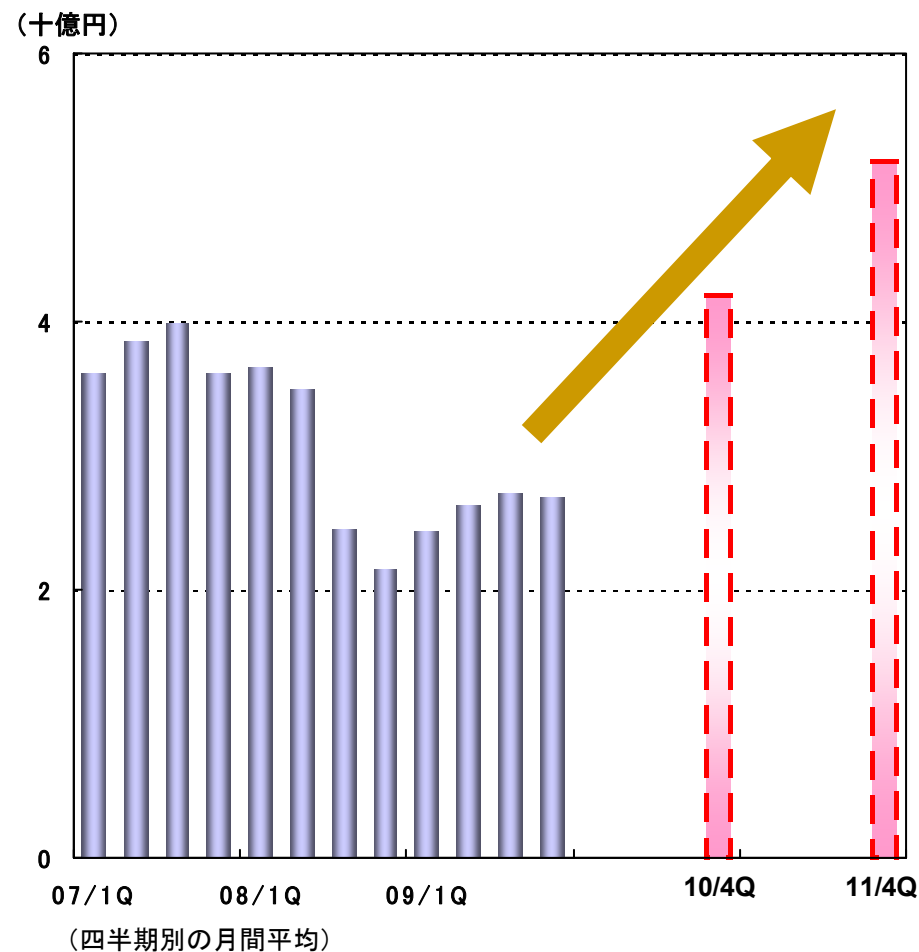


グループの総合力を活かした商品・サービスの拡充

外国株式の地域別売買代金

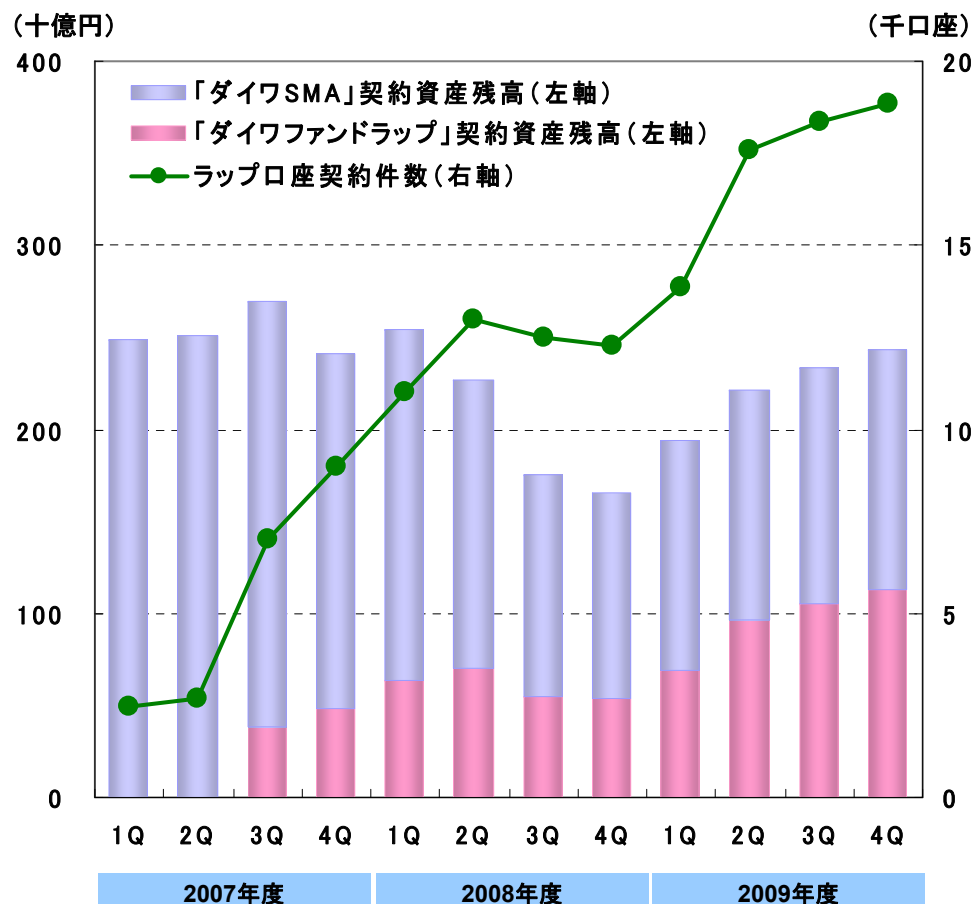


投信代理事務手数料の推移

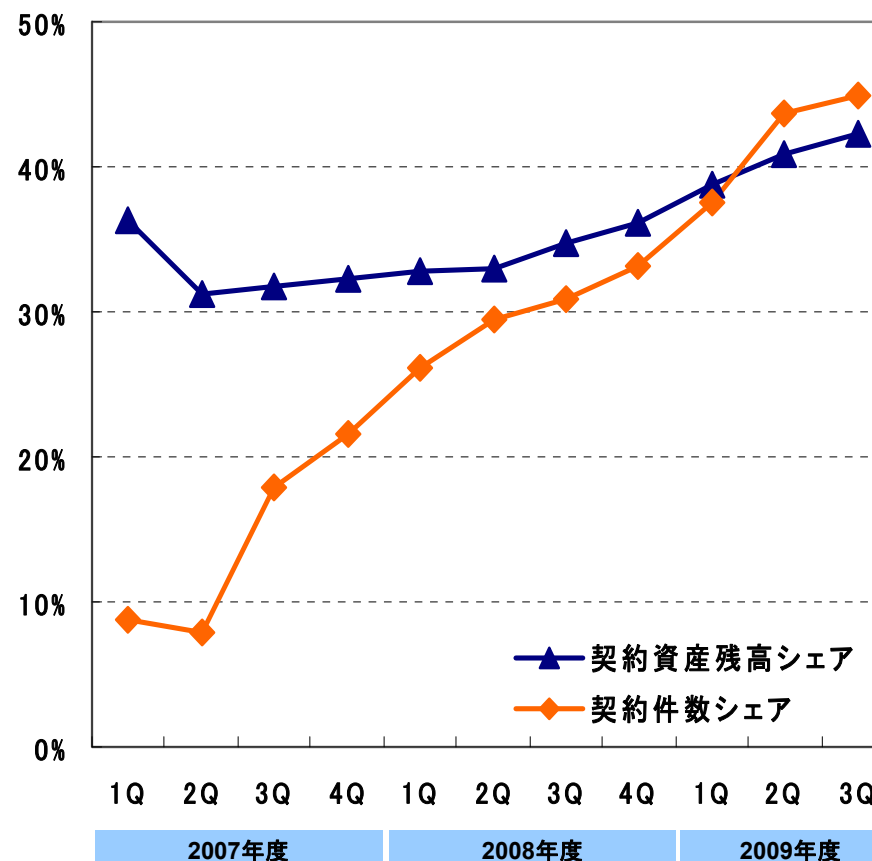


競争力の高い商品・サービスへの注力

ラップ口座契約資産残高・契約数の状況

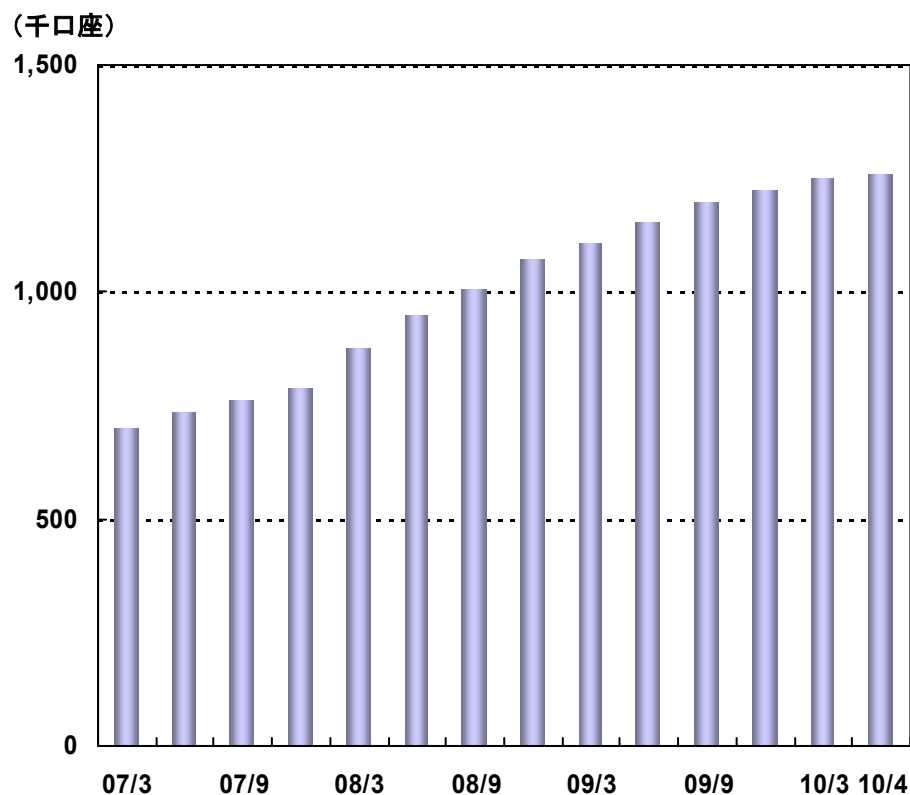


ラップ口座の業界シェア



アクティブな投資家に訴求するサービスの充実

「ダイワ・ダイレクト」口座数の推移

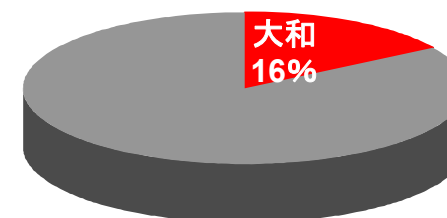


取扱商品の拡充と利便性の向上

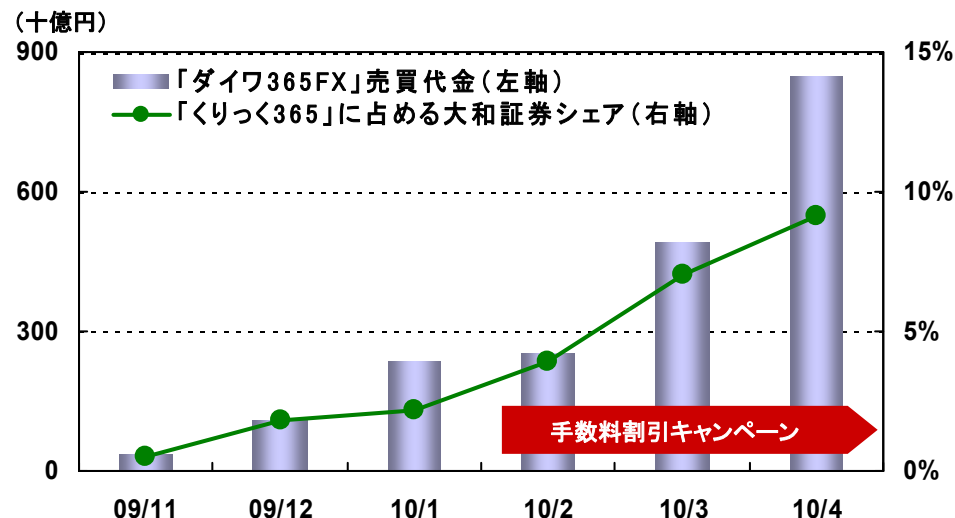
アクティブ投資家に
訴求するサービス充実

「くりっく365」新規口座シェア

09年11月～10年4月の新規口座シェア



「ダイワ365FX」売買代金の推移



(出所) 東京金融取引所資料より大和証券作成

銀行業への参入準備

- 2010年4月1日 銀行準備会社を設立。当局の認可取得後、開業の予定
- 大和証券を銀行代理店とし、お客様に高い“利便性”を提供
- インターネットと銀行代理店をフル活用した“ローコスト経営”により、お客様へ“高金利預金”を提供

商品・サービス

- ◆ 生活口座ではなく、「資産形成のための口座」(＝資産形成に便利・有利な口座)を提供
 - 運用商品として、常時高金利の「普通預金」「定期預金」等を提供
 - 銀行口座⇔証券口座をスムーズに連携する自動振替サービス「スweep・サービス」を提供

ターゲット

- 預金選好の強い新規顧客層（特に富裕層）、ならびに既存顧客の銀行預金
- 証券会社のMRFや銀行の普通預金で運用されている証券購入待機資金

チャネル・プロモーション

- ◆ 銀行代理店をフル活用
 - 大和証券を銀行代理店とし、営業力やインフラ等を活用。口座開設、預金の勧誘を行う
- ◆ インターネット・バンキングの展開
 - 銀行ではインターネット・バンキングを展開。店舗、営業員等は保有しない

ホールセール

2009年度の総括 ～体制の整備～

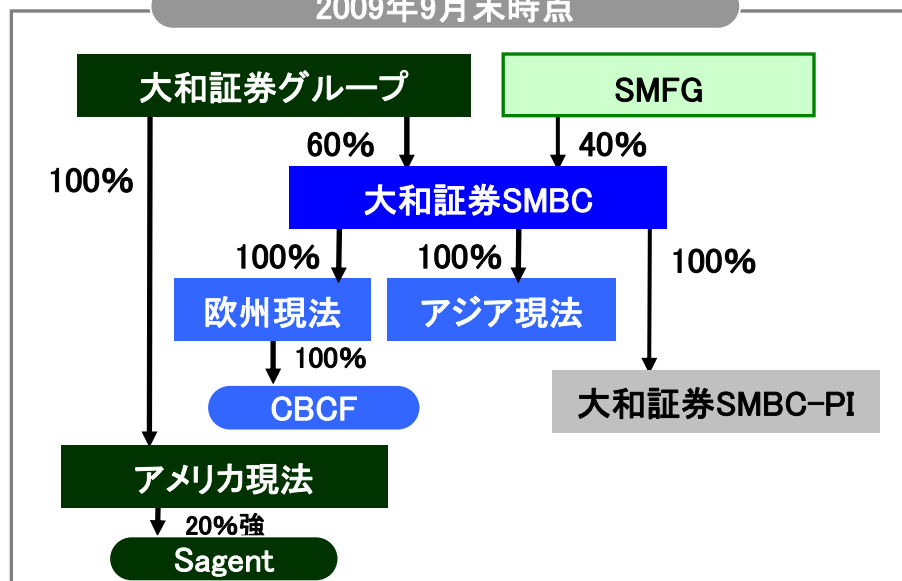
2009年度の主な取り組み事項

- 1 Close Brothers Corporate Finance (Holdings) Limited社の買収
- 2 大和総研からリサーチ部門(金融証券研究所)を移管
- 3 三井住友フィナンシャルグループとの合併解消
- 4 アジアビジネスの飛躍的拡大に向けた戦略の策定
- 5 自己投資部門(PI)の大和証券グループ本社への譲渡
- 6 アメリカ大和証券の大和証券キャピタル・マーケットへの移管

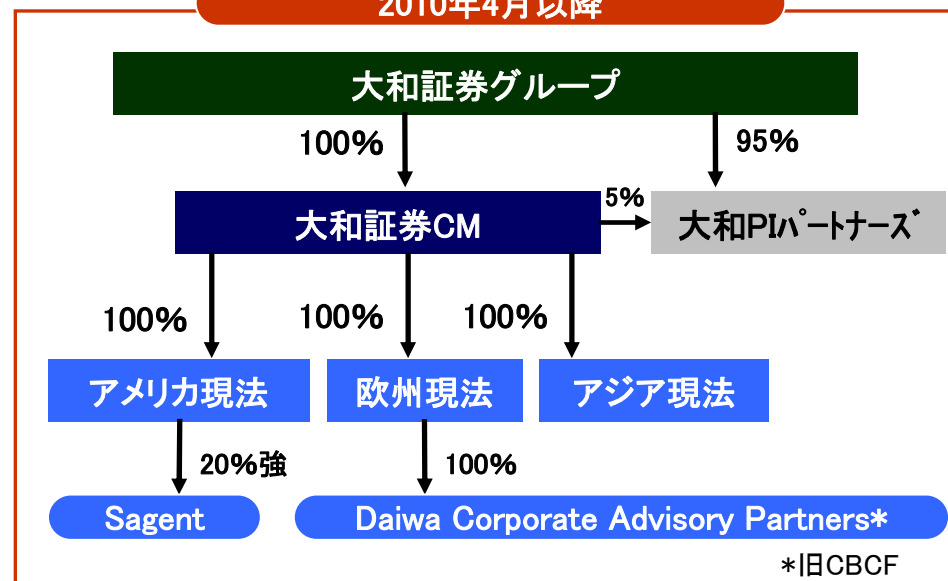
- 事業拡大・推進のための体制整備は一通り完了

今後は、積極的に利益を獲得していくステージへ

2009年9月末時点



2010年4月以降



2010年度の方針 ～重点テーマ～

アジアビジネスの早期の黒字化へ向けた取組み

国内事業基盤の強化

- － ブローカー評価の向上
- － リーグテーブルNo.1の獲得

大和証券との連携強化

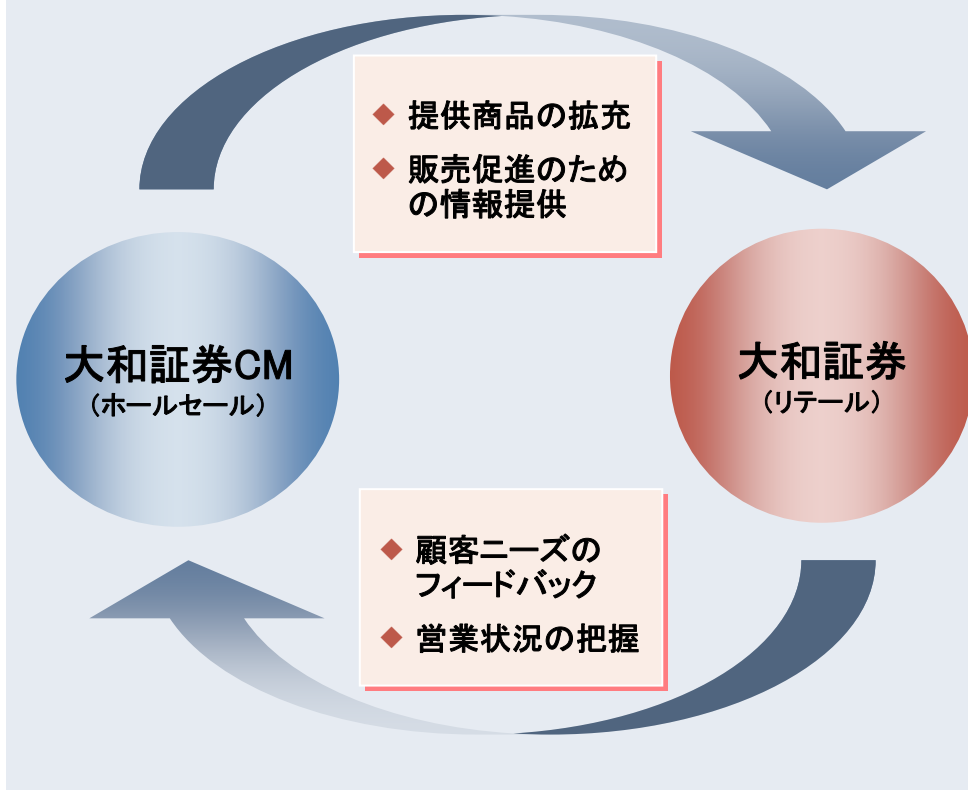
グローバル・ベースの経営管理体制強化

2010年度の方針

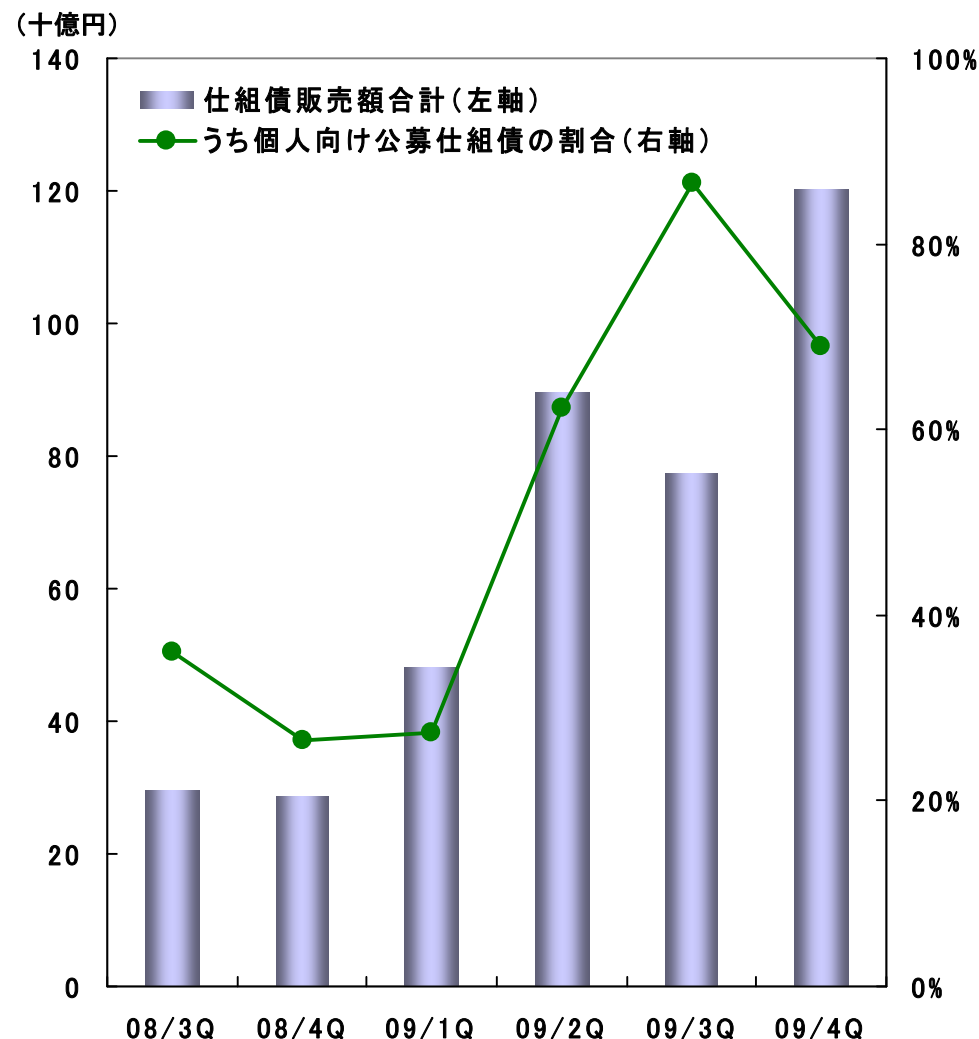
- 即戦力かつコアとなる人材の採用、インフラ整備のスピードアップ
- 大和証券の外国株強化方針に合わせたサービスの拡充
- 汎アジアをコンセプトとした、日本株およびアジア各市場株式のクロスセル推進
- アジア株のプリンシパル取引対応強化
- ブローカー評価向上による手数料シェア・アップ
- 電子取引、エクイティ・ファイナンス関連手数料の拡大

「大和証券のお客様向け商品」と「サービス提供力」の強化

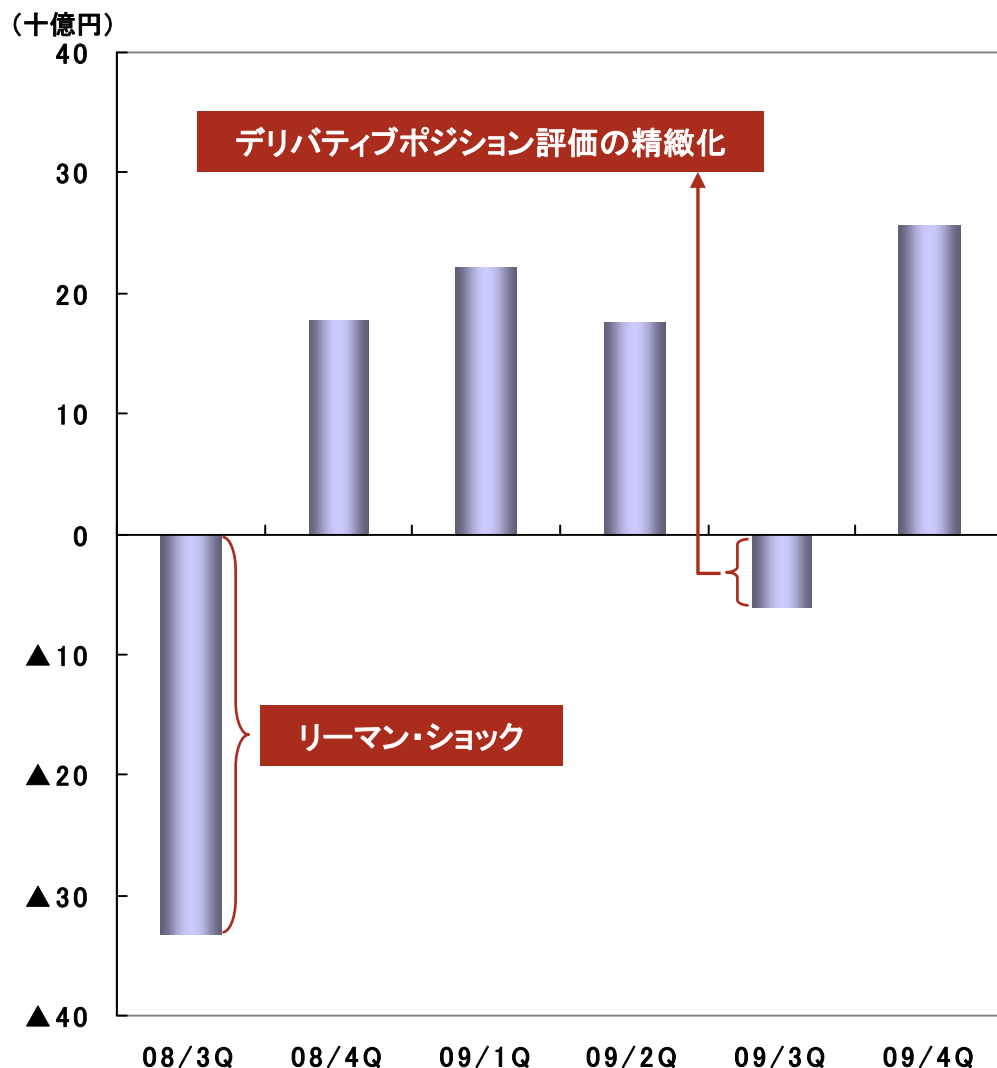
- 売出仕組債・売出外債の商品提供、エマージング通貨建て外債等の取扱量拡大



仕組債販売額の推移



大和証券キャピタル・マーケットズ トレーディング損益



デリバティブビジネスのグローバル展開に向けて

アジアデリバティブチームの本格始動

- アジア通貨金利スワップ、為替取引・通貨オプションなどのデリバティブ商品の提供
- 個人投資家向けのアジア関連商品の提供

グローバルなデリバティブ運営に向けた体制整備

- デリバティブ業務におけるリスク管理、ミドル・バック業務の体制整備（東京、ロンドン、アジア）
- アジア地域（台湾、韓国、インド）におけるデリバティブライセンスの取得

2009年度下期の取り組みと成果

1 コア事業基盤の足固め

- 下期普通社債(自社債除く)リーグテーブル1位獲得

2 グローバルM&A体制の本格稼働

- オリジネーション体制の整備
- 【米国】Sagentとの連携
- 【欧州】CBCF*との連携

(*現Daiwa Corporate Advisory Partners)

3 アジア・オセアニア営業基盤の飛躍的強化

- アジアIBヘッドおよびチャイナIBヘッドの採用開始
- アジア拠点のエクイティ引受体制整備

2010年度の戦略

組織再編／セクター別体制の構築

ソリューション力・オリジネーション力の強化によるサービスの向上

顧客ニーズの迅速かつ的確な把握

案件数・収益の拡大

アジアIB体制の抜本的強化

中核バンカーの採用を継続

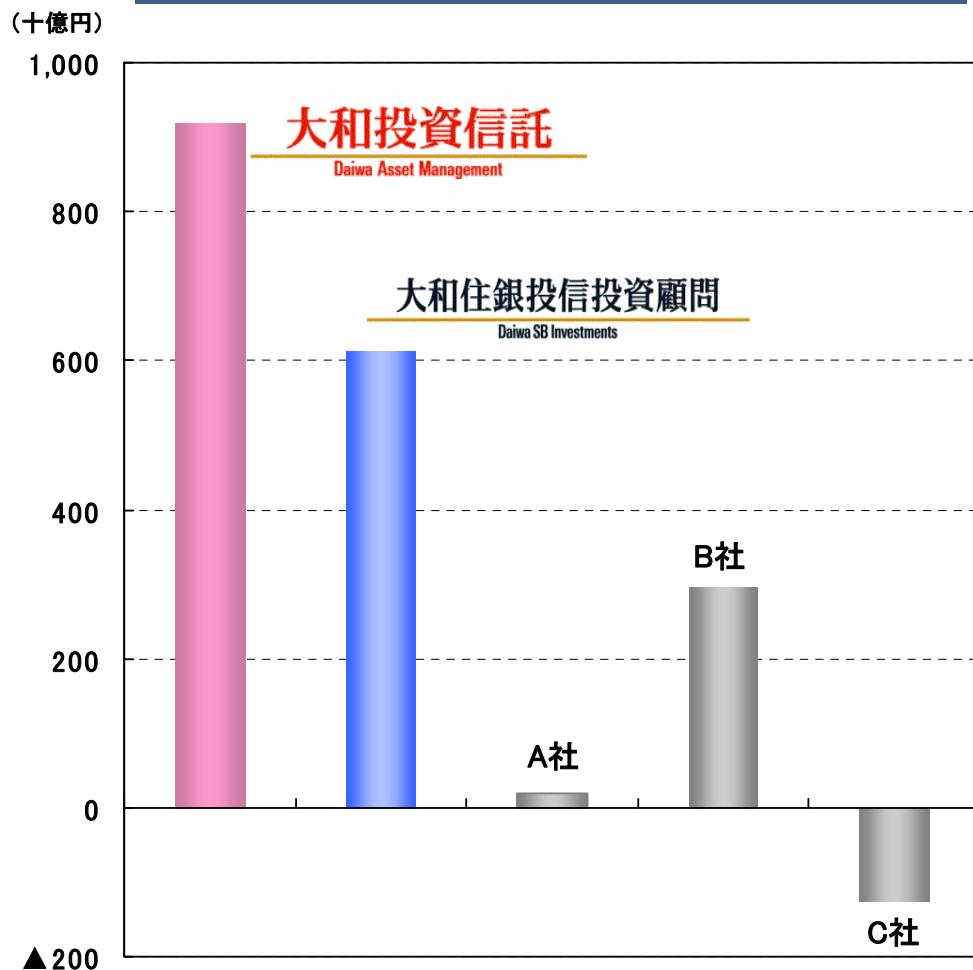
2010年度中の体制整備

ECM リーグテーブルトップ10

アセット・マネジメント

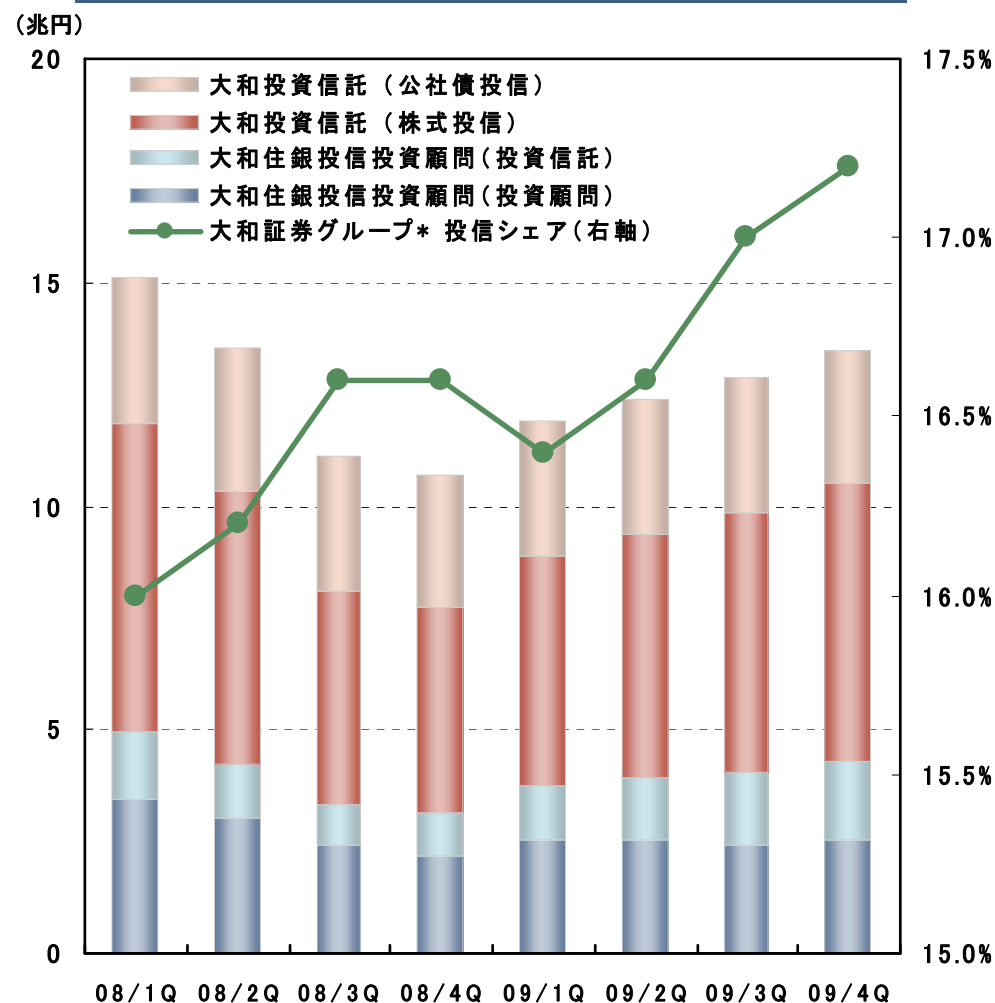
資金流入の継続による運用資産の拡大

株式投資信託(ETF除く追加型)
2009年度(09年4月～10年3月)の資金増加額



出所: 投資信託協会データより集計

アセット・マネジメント 運用資産残高



* 大和投資信託(公社債投信+株式投信)+大和住銀投信投資顧問(投資信託)

(MEMO)



大和証券グループ本社 IR室

TEL: 03-5555-1300 FAX: 03-5555-0661

E-mail: ir-section@dsgi.daiwa.co.jp

URL: <http://www.daiwa-grp.jp/ir/>